



旧山本条太郎別荘は長谷桑ヶ谷（鎌倉能舞台のある谷戸）の標高 40 メートルの丘陵地に建つ大正 7 年（1918）建築の数寄屋風建築です。平成 28 年（2016）に国登録有形文化財となっています。山本条太郎は三井物産出身の実業家で、政治家、満鉄総裁などを務めました。当初の敷地は一万坪を超えていましたが、現在も約五千坪の敷地が残されています。雁行型に配置された建物の母屋からは長谷の町並みが眺望できます。邸内には二席の茶室が残されており、市中山居を楽しむ和風別荘としてほぼ完全な構成がなされています。現在は、神霊教鎌倉霊源閣として使われています。

（2018 年 9 月現在）

所在地 鎌倉市長谷 3 丁目

建設年 大正 7 年（1918）

長谷の桑ヶ谷、標高 40 メートルの高台に建つ、本格的数寄屋建築であり、二席の茶室を持つ。山本条太郎は三井物産から実業家、立憲政友会代議士、満鉄総裁などを務める。三井物産の益田孝などと親交もあり、茶道にも熱心であった。逗子の脇村邸を建てた藤瀬政次郎は山本条太郎の次の三井物産上海支店長である。湘南邸園文化祭では 11 月の第 3 土曜日を中心に旧山本条太郎邸の一般公開を実施している。